

総務常任委員会 所管事務調査 報告書

1 開催日時

令和7年1月29日（水曜日）午後1時49分～午後3時10分

2 開催場所

松原市役所 3階 議会会議室

3 出席委員（6名）

委員長	畑 山 和 晴	副委員長	菊 池 美 穂
委員	畠 山 由 美	委員	佐 藤 浩 崇
委員	村 上 治	委員	青 柳 信 義

4 欠席委員（なし）

5 説明のため出席した者（7名）

松原市議会議長 河 本 晋 一

松原市市民協働部市民協働課長 北 野 智 海

松原市市民協働部市民協働課 セーフコミュニティ係 係長 西 田 裕 信

松原市市民協働部市民協働課 セーフコミュニティ係 主事 有 田 穂ノ香

松原市議会事務局長 大 浦 靖 久

松原市議会事務局 参事兼議事調査係長 恩 地 裕 也

松原市議会事務局 議事調査係 宮 本 優 人

6 事務局職員出席者（1名）

主 事 平 塚 啓 太

7 調査事項

セーフコミュニティの取り組みについて

8 調査報告

少子高齢化や、地域のつながりの希薄化、ニーズの多様化、課題の複雑化などを如何にして解決するか、という時代や社会環境、ライフステージによって変化している社会的問題が背景があったそうで、本市の課題とも重なります。「子どもの安全」「高齢者の安全」「交通安全」「犯罪の防止」「自殺予防」「災害時の安全」という6つの重点課題について地域住民や関係機関と対策委員会を立上げ、様々な対策を行った結果、交通事故件数や犯罪認知件数の減少などの成果が出ていることや、学校の安心安全の取り組みである『ISS（インターナショナル セーフスクール）』の認証を受けていることなどについて、具体的な事例を説明いただきました。

着実に事故や犯罪件数などは減少傾向にあり、また市全体に安全への意識の高さ、協働のまちづくりの考え方が根づいており、特徴的なのは、すべての市民の一生の安全が対象であること、根拠をデータや数字で可視化することで市民が自分ごととして受け止めやすく対策しやすいこと、各委員会の検証により効率的・効果的にPDCAサイクルを回せるということ。また、市民協働課が道路や防犯、国際交流などの業務も担当しているとのことでした。そのことで市民との距離をより近く、相談などのハードルを低くしたそうです。

このような工夫は、本市でも活かせるものと捉えます。例えば、各地区で通学路等の交通安全ポイントマップ（危険箇所が把握できるようなもの）を児童生徒とともに作成し市内全域で共有するなど、子どもをはじめとした市民と協働で市の安全を考えていく機会があれば良いと考えます。自身や周囲の安全を考えることをきっかけに、自分たちが住んでいるまちへの関心が高まれば、地域の絆の再構築につなげることができるとともに、協働の仕組みを通じて、行政が本来すべきこと、地域ができることを整理することができ、多くの施策においても選択と集中を図ることができるようにと考えます。

この取り組みは、担当課だけではなく全庁をあげての取り組みの成果であり理解と協力があって成し得ていることと思います。また、行政主導となって例えば定期的に町内会連合会の役員会議を行い、自治会にお願いしたい内容であったり、自治会との情報共有を行ったり町内会の窓口と連携を取っているとのことでした。また、地域団体との連携については青色防犯パトロール活動を支援することで災害時や緊急的な情報を発信してもらう事で連携を取っているとのことでした。ただ、課題としては、セーフコミュニティの認知度は上がってきているものの、まだ認知できていない方もいることから、広く市民に認知してもらう事だそうです。

セーフコミュニティの関わり方として個人が自助の観点で自分のことは自分でやる、地域・会社・団体がみんなで支え合う、そして公的機関、行政が自助・共助を支援するという連携の

仕組みが完結していることは、本市として見習うべき点が多くあると感じます。

暮らしを自慢できるまち、教育と子育て環境を誇るまち、元気と温かい心で支えるまち、市民の思いを共同で作るまちを基本方針とする本市においても参考となる取り組みだと思います。今後松原市の取り組みについて、参考となる部分はしっかりと研究していくべきと感じます。

令和7年2月19日

委員長 畑 山 和 晴
